

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572206944		
法人名	琴丘ふくし会		
事業所名	やすらぎホーム 希望の家		
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字町後256		
自己評価作成日	令和3年1月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者も高齢化や重度化してきているが個々の今出来る事は何か考え、行ってもらう様に努めています。また利用者との係りの中でその方の要望や楽しいと思える事を見つけ出し支援しています。季節に合った行事を計画し利用者と職員と一緒に楽しんでいます。毎日の余暇活動も利用者の方からやりたい事を聞きながら行っています。家族との連携も密に図ることができるようにこまめに連絡し、繋がりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に同法人の特養やデイサービス等のサービス事業所が開設されていることで相互の協力関係が築かれています。認知機能が低下してきてできることが少なくなりましたが、その人の持つ力に合わせてできることをしていただき、また、これまでの生活スタイルや意思を尊重して一人ひとりの思いに寄り添った支援ができるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の利用者が自分らしく生活出来るように個々を尊重し支援しています。理念や目標をホールに掲げており職員会議等でも確認しています。	その人の生活スタイル、意思を尊重し、本人のペースに合わせて個別に対応しており、介護計画作成の際にも理念に沿った支援となるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は母体施設との合同行事や地域の文化祭、外出、外食等を通して交流を深めていたが今年度はすべての行事他が中止となってしまう中々交流する事は出来ない状態である。感染予防と家族の要望もあり思う様に外出出来ていない。それでも受診時等地域の知人等に接する機会ありお互いの近況等を語りあう事もあります。	新型コロナウイルスの影響で利用者が外部の方と交流できる機会が限られていますが、移動販売の方とは利用者と接触しない形で続け、訪問理容を利用する等してホーム自体は地域の一員として関わり続けていけるように取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	今年度は運営推進会議等の開催が感染予防の為出来ませんでした。委員の方には日常生活状況を手紙で送ったり電話にて報告している。また家族の方については日常生活の様子を報告したり面会があった時等認知症の進行についての報告をして理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催出来ませんが定期的に委員の方に連絡し助言や意見があれば取り入れています。委員の方からも利用者の近況を訊ねてくれたり、「大変だな」「頑張ってください」等と言葉かけをしてもらっています。	包括支援センター、家族、民生委員や地域の方々が会議メンバーとなっており、意見や提言を参考にしてサービス向上に活かしています。現在は資料の提出のみにとどまっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は運営推進委員会を開催する事は出来ないが日常生活等の資料を提出し意見等を求める様にしている。また電話等での相談をして助言をもらっています。2か月に1回は本所の方にも出向き資料等の提出をしています。	窓口に出向いたり、電話で連絡することも多く、制度上の不明点等の相談事項に対応していただいています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し定期的に委員会を開催しています。職員の方にも不適切ケアやスピーチロックのアンケートを取り問題点の改善の取り組んでいます。	担当職員を設定して委員会を開催し、資料を基にして理解に繋げ、アンケートで日常の行為を確認する等して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括支援センター職員より虐待の研修を受けた職員が会議で他の職員に伝達研修を行っています。また利用者の対応時一人の職員が難儀している時は職員を変えたり一緒に行う等して助け合っています。(虐待にならない様に)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用する方がいる為どのような制度なのか職員会議で研修をしました。また社会福祉協議会の担当の方からも情報や制度についての確認し実践を通し皆で支援が出来よう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	希望者には契約前に施設見学をしてもらい、相談や要望があれば対応している。契約時説明を行い手続きをしている。また入所後も改定があった場合は個々に説明し理解を得る様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で利用者からの要望や不満がないか聞き出すようにしている。家族には来苑時に近況を話しながら要望を聞くように努めています。また家族の方にアンケートも実施しています。	利用者から出た要望には随時対応しています。面会時や年1回アンケートを実施する等して家族からの意見、要望を聞き出し、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの中で職員の気づきや意見を聞き職員会議を通し解決しそれでも解決できない問題点があれば同法人内全部署で行う経営会議に提案する様にしています。	職員の意見は経営会議で管理者を通じて法人に伝えるシステムになっており、備品の調達や環境整備等が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度はまだ本格的に実施していないが毎月の勤務に対する努力等を評価する事はしている。給与水準などは法人が決定しているが少しでも職員が働きやすい環境を作れる様に問題点等を経営会議に提案しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	例年は法人内の研修、外部研修に参加したりして学ぶ機会を設けているが今年度はコロナウイルスの関係で積極的に行っていない。会議等でも行っているが日々のケアの中で実践を通して学ぶ機会を作る様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会、地域包括センターの職員と情報交換等を行ったり分からないことがあれば確認する様にしています。また同法人の職員とは連携を密にして情報交換を行う事でサービスの質を向上させていく様に努める様にしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネより情報を聞き事前訪問時等本人の様子を見ながら不安な事や要望を聞く様にしている。本人の状況を見ながら支援方法を検討し統一したケアを行う事で安心した生活ができる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や見学に来た時等家族の声を良く聞くようにしています。また利用者の状態し少しでも家族の要望に応えられるようにしています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事(食器拭き・洗濯物たたみ等々)は、極力行ってもらっています。やって頂いた時は、必ず感謝の言葉を掛けています。昔ながらの調理法を教えたり、味見をしてもらったりする事もあります。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、面会や行事等は制限されていますが本人や家族の要望で一緒に受診に行って頂く時があります。毎月生活状況を郵送し、体調の変化等があった場合はその都度連絡し相談をしています。受診後の結果や薬の変更時があった場合も連絡する様にしています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で、中々面会や外出が出来ませんでしたが、贈り物や年賀状の御礼の電話をし、会話をさせて頂きました。また入所の美容院等の外出もできる限り対応しました。	感染症発生前のような交流を控えています。できることには極力対応し、関係継続のための支援に努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者の関係性を把握しレクや軽作業を実施している。また余暇や軽作業を実施しながら利用者同士出来ない所を協力し合っています。(茶碗拭き、皮むき、食器下げ等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養に移動された方が2名いました。様子を見に行き特養職員とも支援の方法等で情報交換し支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や関わりを多く持つ事で、本人の希望や意向を把握出来る様努めている。困難な場合でも、行動や表情から汲み取る・家族等から情報を得る様にしています。	会話や日常の様子から利用者を理解し、寄り添いながら意向の確認に努め、職員の気づきも活かして介護計画に反映できるように取り組んでいます。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネより情報を得て、これまでの生活状況の把握に努めています。全職員で把握し、本人が求める生活が送れる為の、判断材料にしています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	安易に介助をしてしまうのではなく、やってみて出来る事は行ってもらえる様な対応を心掛けています。会話や関わりを持つ上で、本人の状態や意向やを汲み取る様、心掛けています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や思いに沿える様、介護計画を作成しています。また、職員会議時に、担当職員からの意見を全員で検討し反映しています。介護計画書は家族に送付し、確認の上署名・捺印をしてもらっています。	担当職員が月例報告を行うと共に、介護支援専門員が職員の意見を聞いてモニタリングを行い、介護計画を作成しています。二重記録を解消し、アセスメント、モニタリング結果が読み取れる仕組みづくりの導入を検討しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状況をケース記録等に記入し、職員全員で共有しています。ケアプランに基づいて実践し、担当職員に月例報告をしてもらい、職員全員で検討しています。状態の変化に応じて、介護計画の見直しをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年町の文化祭に作品を出品し見学に出掛けたり中学校の福祉体験等等参加していたが今年度はコロナウイルスですべて中止となり参加できていない状況です。また高齢化や認知症の重度化に伴い作品を作成できる利用者は少なく日常生活の中の軽作業を中心に実施しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を重視して入所前のかかりつけ医を継続して受診出来る様にしています。(薬局も同様です)受診は出来る限り職員で対応していますが家族の方でも積極的に協力してくれ大変助かっています。職員が行けない時は家族に近況を伝えたり、状況を書き医師の方へ伝えて貰っています。精神科の受診は職員で対応する様にしています。	入居時に意向を確認し、希望に沿って支援しています。家族対応の方もおり、職員が介助する場合は家族に受診報告をしています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内には看護師の方は常駐していない為各医療機関の看護師に相談して対応しています。緊急時等は母体施設の看護師が駆け付けてくれ対応してくれる時もありました。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関によって違いますが地域連携室や病棟看護師に連絡を取り情報交換をしています。また退院時はカンファレンスにも参加し情報を共有し職員の方にも確実に申し送りをしています。特に薬の変更があった場合は病院の薬剤師と連絡を取りながら対応しています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に同法人内の特養を申し込んでいる方が多く重度化している方は特養の入所調整委員会の方で対応してもらっている。状態が少しずつ変化している場合は家族にも今後について相談し確認し他施設へ移行しています。	ホームでの生活が困難な状況であると医師が判断した場合、また、状態の変化に応じて家族と話し合い、法人内の連携を図ると共に他施設への移行支援を行っています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修で緊急時の対応等を消防署員より講習を受けている。全員が講習に参加出来ない為職員会議で持ち帰り研修を実施しています。また利用者の急変もあり初期対応の実践を行う様にしている。またマニュアルの見直しや作成も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年は消防署員の立ち合いで避難、消火訓練等行っています。また運営推進会議の中でも避難訓練を実施し委員の方より協力体制等について確認しています。また法人の全施設で合同の水害等に備えた防災訓練も実施しています。(今年度は新型コロナウイルスの発生の為消防の立ち合いは出来ませんでした。来月もう1回開催予定です)	日中、夜間を想定した訓練を計画的に実施し、法人及び、運営推進会議メンバーの協力が得られる体制にあります。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めながらも、言葉遣いや声のトーン等に注意しながら対応しています。また、訪室時は、ノックと声掛けをする・入浴時やトイレ使用時は、確実にドアを閉める等、基本に沿って対応しています。	状態にあった対応となるよう配慮しつつ押し付けにならない支援を心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりを多く持つ事で、本人の思いや希望を感じ取ったり、信頼関係を築き、話し易い雰囲気を作れる様心掛けています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事に時間が掛かる方、湯船にゆったり浸かる方等、その方のペースに合わせて過ごしてもらっています。余暇活動も、本人の好みや、やりたい事を聞きながら行ってもらっています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室や理容室へ出掛ける利用者もいます。他利用者は、定期的に訪問美容を利用しています。洋服は、季節に合った物を着て頂ける様支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお茶・おしぼり配り等、手分けをしながら行ってもらっています。食事は、職員も一緒に摂り、楽しい雰囲気作りを心掛けています。ワゴンを使用し下膳してもらい、その後、食器拭きも行ってもらっています。	食事の一連の流れに利用者に関わることができるよう支援しており、下膳方法にも工夫がみられます。調理の日を設けたり、出前昼食の日を設けて好きなものを注文し、楽しんでいただけるように取り組んでいます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者よりバランスが摂れた食事を提供してもらっています。その人に合った状態に、こちらで盛り付けており摂取量も、毎回記入しています。水分は、出来るだけ多く摂ってもらえる様、好みの物を提供する等の工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄とうがいを行い、就寝前は、義歯洗浄剤で消毒をしています。出来ない方には、声掛けをしながら行ってもらったり、一緒に行く等しています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	普段の排泄の間隔等を把握し、時間を見計らってトイレ誘導をしています。パットやリハパンが本人に適切かどうか判断し、不快な思いをせず過ごせる様支援しています。	利用者の状態に応じて誘導し、トイレで排泄しています。家族には排泄用品の使用について説明し、費用負担に配慮しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらえる様工夫をしています。午前と午後の体操の他、アクティビティでは、楽しみながら体を動かしてもらったり、歩行訓練を行う等しています。医師の指示を仰ぎ、下剤の調節も行っています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日4～5名が入浴し、湯船に浸かる時間や着替えの時間等、本人の要望や状態に合わせています。嫌がった場合は、時間をずらしたり、対応する職員を変えたりしています。無理強いせず、翌日入浴する場合もあります。	日曜日以外は毎日入浴可能にしており、拒否する方が多いものの柔軟に対応し、週3回程度入浴できるように支援しています。日曜日は足浴を行っています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅でソファを常用していた方にはソファで休んで貰ったり足の痛みを訴える方には畳の所で足を伸ばしてもらおう等個々の体調を配慮しています。日中体を動かす事で夜間の安眠に繋がる様に支援しています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関を受診し薬の変更や追加があった場合は必ず全職員に口頭で申し送りしたり処方箋や薬を確認してもらっています。特に新入所者が入った場合は薬剤師に直接確認する事もあります。配薬、誤薬防止のマニュアルも作成し薬の服用方法等も変更しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・野菜の皮むき等、本人の能力に合わせ、手分けして行ってもらっています。毎日の余暇活動では、本人のやりたい事を聞きながら行ってもらい、季節ごとの行事他やお誕生会等を開催し、楽しんでもらえる様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の為、外出やドライブは難しかったが、娘さんといつも利用している美容院に出かけた方もおりました。例年であれば、天候を見ながら自宅まで行ったり、町の文化祭の見学・紅葉や桜を観に行く・外食会等、外出の機会を作っています。	感染防止のために外出の機会は減っていますが、受診のために出かけたり、ホームの周辺を歩いたりすることで外の空気を吸っています。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば家族と相談しお金を所持を行ってもらっています。コロナ禍の中で殆ど外出は出来ていませんが受診時等病院の売店等で本人の好きな果物やお菓子類を購入し支払い出来るように支援しています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に絵葉書が来る利用者には本人の了解を得て代読したり、贈り物が届く利用者、年賀状が届いた利用者には職員が電話をかけて必ず本人と家族の方が会話出来るようにしています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面や玄関等には、季節ごとの飾り付けをし、季節を感じて頂ける様にしています。ホールだけでなく、各居室のエアコンを利用し、常に快適に過ごせる様、温度や湿度の管理をしています。出来る方には雑巾を渡し、一緒に掃除をしています。	木をふんだんに使用した造りでホームの内外に温もりがあり、桜の木等の植栽が季節を感じさせてくれます。加湿器を増設して室温を管理し、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでくつろぐ方や、廊下にあるベンチに座り、外を眺めながら会話をする方もおられます。昼休みに居室で過ごさず、ホールに来てテレビを観たり軽作業をする方もおられます。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が普段使用している物や、思い入れのある物を持ってきて頂いています。自分で編んだセーターやバックを持ってきた方もおられます。居室には家族の写真を飾っています。	洗濯物を干したりして冬場の湿度調整をしており、部屋の位置によって温かさが異なるため、暖房器具の使用を調節しながら対応しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げていましたがプライバシーの配慮もあり外しました。表札がなくても自分の部屋が分かる為入室に戻られます。また玄関先にはスロープがありますが全員の利用者が階段の昇降が出来る為使用していません。手すり等も同じです。		